

令和6年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|-------------|-----|------|------------------------|------------------|
| 科目 | 世界史探究 | 単位数 | 4単位 | 学年・学科・コース | 3年・普通科・普通コース（文系） |
| 使用教科書 | 世界史探究（東京書籍） | | 副教材等 | グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社） | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|--|---|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。 | 世界の歴史事象の意味や意義、特色などを時期や年代、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、それらを説明、また、議論できる。 | 世界の歴史の諸事象について、主体的に探究しようとする態度を持つとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する姿勢などを持っている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容（ねらい） | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|---|------------------------------|---|-------|---|---|--|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 | 第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大 | 16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。 | ○ | | | 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 | |
| | | | | ○ | | 主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 5 | 第14章 国民国家と近代社会の形成 | 18世紀半ばから19世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。 | ○ | | | 国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 | 定期考査 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「国民国家と近代社会の形成」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 6 | 第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容 | 産業革命で先行したイギリスが19世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。 | ○ | | | 世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 | |
| | | | | ○ | | 労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 7 | 第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行 | アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。 | ○ | | | 世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 | 定期考査 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 | |

| 月 | 学習項目 | 学習内容（ねらい） | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|----|---------------------------|--|-------|---|---|--|----------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 8 | 第 17 章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容 | 第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。 | ○ | | | 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 | 定期考查 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 9 | 第 18 章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦 | 世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によってひきおこされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。 | ○ | | | 国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 | 定期考查 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「国際協調体制の動揺と第二次世界大戦」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 10 | 第 19 章 第二次世界大戦と戦後の東アジア | 第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。 | ○ | | | 第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 | 定期考查 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「第二次世界大戦と戦後の東アジア」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 11 | 第 20 章 冷戦の世界化と国際制度 | 冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。 | ○ | | | 紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 | 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 12 | 第 21 章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化 | 冷戦の変容にとまない、アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後には生じた経済のグローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。 | ○ | | | 紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 | 定期考查 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性、諸地域間の経済格差と各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性、科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「冷戦の変容・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 | |
| 1 | 第 22 章 21 世紀の地球的課題と人類社会 | 21 世紀に入り、地球上ではどのような問題が生じ、人類社会はどのような課題に直面し、それを克服しようとしているのかについて、これまでの歴史をふまえ、その課題に取り組む当事者として考える。 | ○ | | | 紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 | 授業態度 課題 プリント |
| | | | | ○ | | 紛争と経済や社会の変化との関連性、経済格差と政治や社会の変化との関連性、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| | | | | | ○ | 「21 世紀の地球的課題と人類社会」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 | |